

研究課題名　耳鳴症例における人工内耳マッピングの検討

1. 研究の対象

人工内耳を装用し当院外来にて継続フォロー中で協力を得られた 23 例(男性 10 例・女性 13 例)とし、選定条件として、成人、コクレア社のサウンドプロセッサを使用、マップが安定していること、マッピング時に6チャンネル(22番、16 番、11 番、10 番、6 番、1番)のみの調整を行っていることとする

2. 研究目的・方法・研究期間

研究目的：コクレア社サウンドプロセッサの人工内耳マッピングの際には最小可聴閾値(以下 T レベル)が正しく設定されないと装用閾値が上昇したり、うるさく聞こえてしまうなど適切な聴こえを提供できないことがある。T レベルの測定には上昇法と下降法による測定されるが、耳鳴症例においては雑音下での雑音下での微弱な検査信号音の確認把握は困難であり、刺激音の追跡である下降法の方が確実ではないかという印象がある。そこで、今回、二つの方法で T レベルを測定し作成されたマップを印象評価で選択し、耳鳴評価との比較検討を行った。

研究方法：T レベルの測定は上昇法、下降法の2つの方法により行い2つのマップを作成。6チャンネルそれぞれを 3 回ずつ測定し、3回のうちの中央値を最終的な T レベルとする。マップの選択は2つの方法により作成されたマップをライブ下で聞き比べてもらい、症例の印象評価で選択してもらう。耳鳴評価は Tinnitus Handicap Inventory(以下:THI)、Visual Analogue Scale 苦痛度・大きさ(以下:VAS)を用いる。統計解析には SPSS を使用し、Mann-WhitneyU 検定にて行う。

研究期間：実施承認日～平成 31 年 06 月 28 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、疾患名、マップデータ、経過（医師記録・リハビリテーション・看護記録・入院経過）、聴覚検査、耳鳴評価、等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65

電話：052-741-2111

名古屋大学医学部附属病院医療技術部リハビリ部門 原 大介（内線 4908）

研究責任者：

名古屋大学医学部附属病院リハビリテーション科 門野 泉